

目指す学校像	○明るく元気のある学校 ○互いに学び合う学校 ○安心・安全な学校 ○地域に開かれた学校
--------	---

重点目標	1 研究と修養に努め、児童が自分で学びを作れる魅力ある質の高い授業の実践 2 児童の人権・生命を尊重するとともに、個人情報の適切な管理を行う健康で安全な学校づくりの推進 3 コミュニティスクールを活用した、保護者・地域とともに歩む学校教育の推進 4 全ての児童が Well-being を実感できる学校を目指す、組織的に活動する学校作りの推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね満足できる結果である。 ○日頃の学習の様子から、ICT 機器を活用し、振り返りや反復練習(ドリル)をしたり、プレゼンテーションしたりすることに意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○国語の「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」で課題が見られる。調査の前半と後半の無回答率の差についても課題が見られるため、学習に対して最後まであきらめずに取り組む姿勢の育成についても取り組む必要がある。	・研修による授業力向上 ・学びの自律化・探求化に向けたスタディログを活用する授業実践及び改善	1 個別最適な学びを軸とした校内研修の推進 2 全国及び市の学習状況調査について、分析を行うとともに、市教委によるカウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し学校全体で児童の漢字に関する学習の向上を図る。	1 調査結果の分析を踏まえた、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定することができたか。 2 国語の「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」の正答率が向上したか。					
2	(現状) ○いじめ防止に関しては、肯定的な意見が児童95%、保護者91%、教職員100%である。いじめ認知が積極的に展開され、いじめの重大事態が起こることがなかった。 ○教育相談については、肯定的な意見が児童79%、保護者94%、教職員100%全体的に高い結果である。 ○施設等による児童の大きなけが等は発生していない。 (課題) ○重大事故はないものの学級・学年内の児童同士のトラブルは課題である。 ○教育相談について児童の割合が低いことが課題であり、多様な児童のニーズに応えられていない場面があることが考えられる。 ○施設面において大きな事故はないものの、開校51年目を迎え老朽化している箇所もあり教職員、児童の安全に対する意識を高めながら未然防止を図ることが課題である。	・チーム蓮沼として行う生徒指導・教育相談 ・積極的な生徒指導の実践、児童の健康管理 ・施設管理の徹底による、安全で衛生的な学習環境の充実	1 生徒指導・教育相談での教職員間の共通理解を図る場の設定、SC、SSWと連携を図った教育相談体制の更なる充実 2 児童の成長を支える教育相談の充実(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携) 3 「いじめ」の早期発見、早期対応(いじめを察知する力の向上、アンケートの活用、面談の実施等)	1 児童理解研修を年間2回以上実施することができたか。 2 学校評価アンケートにおいて、児童において【教育相談】の項目が肯定的な回答が向上することができたか。 3 学校評価アンケートにおいて、保護者において【いじめ防止】の項目が肯定的な回答が向上したか。					
3	(現状) ○元気なあいさつについては、肯定的な意見が児童の90%、保護者76%、教職員100%であった。 ○集団生活のルールやマナーについては、これも児童、保護者、教職員ともに95%以上の肯定的意見であった。 ○思いやりの行動についても児童、保護者、教職員ともに96%以上の肯定的意見があった。 (課題) ○あいさつについては、自発的なあいさつができないという観点が、保護者、地域、教職員の中で共通理解が進んできている、さらにあいさつが文化として定着するために継続して取り組む。	・地域との連携・協働による当たり前のことを当たり前に行える児童の育成	1 講話朝会、学校だより等を活用したあいさつの啓蒙 2 毎週月曜日の児童会主催のあいさつ運動の実施 3 蓮沼小のやくそくの児童・保護者・教職員の共通理解のもと、指導支援を行う。 4 教育活動の積極的な公開(各種たより、あいさつ運動、学校公開、行事、金管バンド)と地域行事への参加や地域から学ぶ教育課程の充実(全教科領域)地域・保護者の協力によるボランティア(防犯・図書・学習・はすネット・チャレンジ・はすメイト等)	1 学校評価アンケートにおいて、【校内美化】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。 2 あいさつ運動を学期に8回以上実施できたか。 3 学校評価アンケートにおいて、【集団生活】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。 4 児童アンケート「「地域の人たちは、自分たちを見守りささえてくれている」と思います。」の項目が肯定的な回答が95%以上 学校評価アンケートで【情報公開】の項目が肯定的な回答が向上したか。					
4	(現状) ○エバンジェリスト、研修主任を中心とした研修により授業における ICT ツールの活用が定着している。 (課題) ○全教職員が活用方法等を学年内で情報共有・実践をしているが、他学年等への共有が課題である。	・児童一人ひとりの Well-being を実現するための教育活動の推進	1 児童一人ひとりの良さを見つけ、資質の向上を図り、指導・支援ができるように、最新の教育情報を提供するため、課題研修と連携して年間に8回以上情報共有の時間を設定する。 2 個別最適な学び・協働的な学びの推進のために情報を収集し、Teams や回覧等で全教職員に情報提供、職員集会、課題研修等で補足の説明を行う。	1 研修等を活用して年間8回以上情報共有の時間を設定できたか。 2 学校評価アンケートにおいて、保護者・児童において【個性の伸長】の項目が肯定的な回答が88%以上とすることができたか。					